

編集後記

第208巻第1号では、特集として、第72回関東部会における基調講演、統一論題座長解題および報告論文の計5本、ならびに第74回関西西部会における特別講演、統一論題座長解題および報告論文の計5本を、掲載した。後者については、諸般の事情により、本来掲載すべき報告論文1本を掲載できなかったことを付記しておく。

正規の本会機関誌として刊行する『會計』第1号となることから、本号刊行に当たり、名誉会員および前会長から祝辞を賜った。ご多忙の折、編集委員会の執筆依頼をご快諾くださった安藤英義先生、桜井久勝先生、薄井彰先生に、衷心よりお礼を申し上げたい。

他方、誠に残念なことに、本会の理事や学会賞審査委員等を歴任された古賀智敏会員が、本年5月5日に逝去された。古賀会員の本会における功績を讀えるために、本会内規に従い、同会員の足跡とお人柄を記した「偲び草」を掲載した。

以上の掲載原稿の前後に、会長挨拶と編集後記を配置し、第208巻第1号の構成とした。手探りの拙い編集となったが、これにより本号が『會計』の伝統を本会において発展的に継承する取り敢えずの第一歩ともなれば、編集委員一

同にとって望外のよろこびである。

版面の作製に当たっては森山書店から多大なご尽力を頂いた。永年、雑誌『會計』の発行を手掛けて来られた同書店ならではの示唆に溢れた助言も、多数頂戴した。記して同書店の関係各位に謝意を表したい。

最後に個人的な所感を記すことをお許し願いたい。会長挨拶で町田会長が述懐されているように、昭和のあの時代、雑誌『會計』において論文発表の機会を得ることは会計研究者として学界に翔び立つための登竜門であった。そしてその当時、雑誌『會計』の編集後記（ないし「編集あとがき」「余白録」等）を執筆されていたのは黒澤清教授であった。いくつもの偶然が折り重なり、黒澤教授がかつて執筆されていた『會計』の編集後記を執筆する「栄誉」を、このたび期せずして授かった。そのことの意味を（大いなる逡巡を覚えつつも）重く受けとめ、機関誌『會計』の今後のさらなる充実・発展に微力を尽くすことをお誓いし、拙文のむすびとしたい。

令和7年11月
機関誌『會計』編集委員会
委員長 藤井 秀樹

機関誌『會計』編集委員会

委員長 藤井 秀樹

委員	浅野 敬志	大石 桂一	岡野 知子	梶原 武久
	金森 絵里	川村 義則	佐久間義浩	旗本 智之
	安酸 建二			
幹事	渡邊 誠士			
